

第 91 期中間株主通信

2016.4.1 ▶ 2016.9.30



証券コード：6863

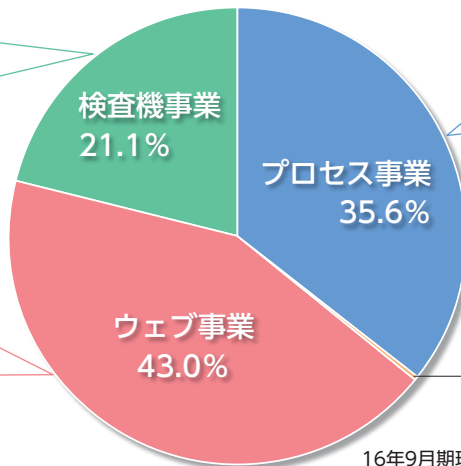
制御・検査装置のパイオニア

ニレコは「技術と信頼」の理念の下、様々な分野で貢献してまいります。

売上構成

当社が長年にわたり培ってきた画像処理技術をベースに、電子機器材料から農産物に至るまで幅広い製品を対象とした検査装置を取り扱う事業

製紙・印刷から電子機器材料まで広範な業種を対象に、シート状製品の位置制御装置などを取り扱う事業

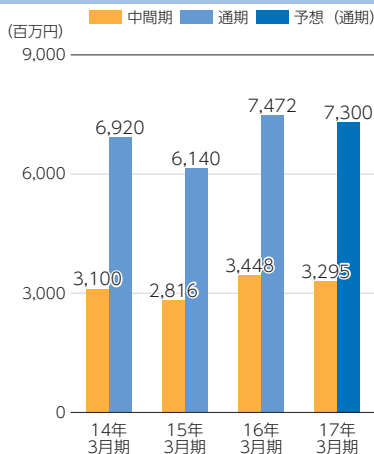


鉄鋼・非鉄金属や化学などの生産ラインを主な対象とする制御装置や計測装置を取り扱う事業

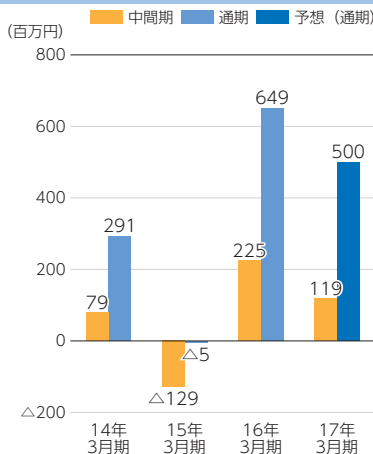
16年9月期現在

業績ハイライト

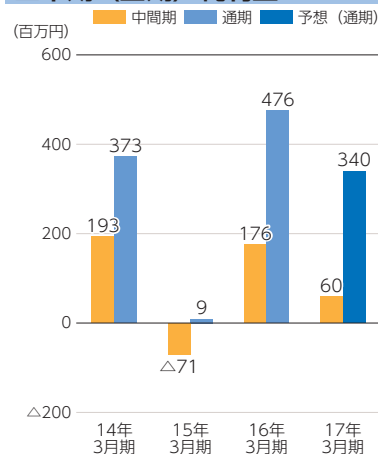
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する 四半期 (当期) 純利益



当上期は期初公表いたしました目標値を下回る結果となり、その遅れを取り戻すことはできないとの見通しから、誠に遺憾ながら、通期売上高、利益を下方修正いたしました。中間配当金は期初計画どおり10円とさせていただきます。



代表取締役社長 久保田 寿治

●当上期を振り返って

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年9月30日をもちまして終了しました第91期上期の業績結果をご報告申し上げます。

当期における世界経済は、中国経済に減速懸念が残るものの、英国のEU離脱による欧州経済への影響は限定的で、米国経済が引き続き堅調に推移したことから、概して底堅い動きとなりました。一方、わが国経済は、個人消費に底打ちの兆しが見られるものの、為替の円高基調が続いていることから輸出企業を中心に企業業績は力強さに欠け、全般的に景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

当社グループの主要取引先であります鉄鋼業、化学工業、印刷業、紙加工業、電子部材メーカーなどの設備投資に向けた動きは、不透明な景気動向を見据えて一部を除き慎重なものとなりました。

このような状況の下、当社グループは引き続きいかなる環境下においても成長できる経営の実現を目指し、付加価値の高い製品・サービスの提供により顧客の抱える課題を解決するソリューション型ビジネスモデルへの変革に取り組んできました。その結果、売上高3,295百万円（前年同期比95.6%）、営業利益119百万円（前年同期比53.0%）、経常利益132百万円（前年同期比52.8%）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は60百万円（前年同期比34.4%）となりました。

なお、中間配当金につきましては、1株あたり10円とさせていただきます。

●当下期の見通しについて

当下期の見通しといたしましては、米国を中心として世界経済は底堅い動きが続くものと想定しておりますが、わが国経済においては、企業収益の改善が足踏み状態となっており、個人消費も横ばいとなっている等引き続き不透明な要因が存在していることから、設備投資需要につきましても決して楽観視できないものと考えております。

このような状況において、当社グループは、製品ラインアップの更なる充実、新市場の積極的な開拓によりいかなる環境下においても成長できる経営の実現を目指し、更なる企業価値向上に向けて取り組んでいきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年3月期連結業績予想

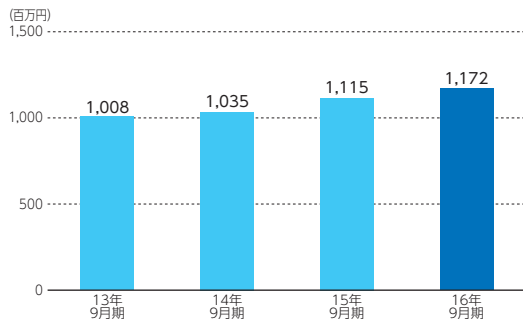
(単位：百万円)

	金額	前期比
売上高	7,300	△2.3%
営業利益	500	△23.0%
経常利益	520	△24.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	340	△28.6%

プロセス事業

■ 売上高

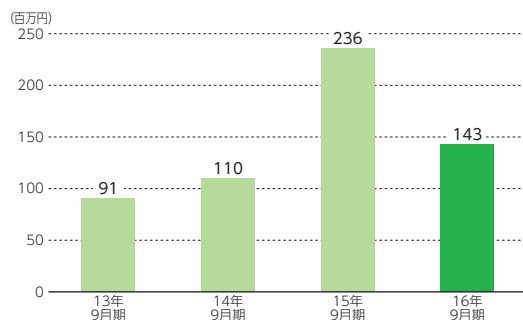
1,172百万円



5.1%

■ セグメント利益

143百万円



39.4%

当期における国内鉄鋼メーカーは、戦略的観点から海外新規設備投資に注力する一方、国内生産体制再構築のために老朽設備の修理や更新も積極的に進めました。また、海外鉄鋼メーカーは、一部高級鋼材メーカーを除き、設備投資に向けた動きは限られたものとなりました。このような状況の下、当社グループは、国内については設備の修理・整備、部品販売等のサービス需要の獲得に注力するとともに、老朽設備の更新のみならず、鉄鋼製品の品質と生産効率の向上につながる製品の積極的な提案に努めました。また、海外については、国内での長年にわたる実績をアピールすることにより、韓国をはじめ、アジア諸国の高級鋼材メーカーを中心に新規需要の開拓を進めました。

その結果、当事業の売上高は1,172百万円（前年同期比105.1%）、セグメント利益は143百万円（前年同期比60.6%）となりました。

下期の展望

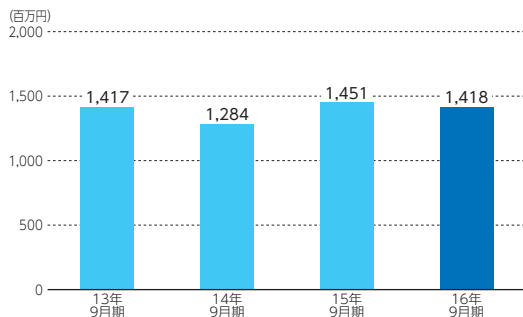
鉄鋼製品の供給過剰状態が依然として解消されていないことから、鉄鋼業界における設備投資は、国内外共に慎重な動きが続くものと想定しております。このような状況の下、当社グループは、国内においては潜在需要の掘り起こしを目指して品質と生産効率向上に

つながる製品群を積極的に提案していくとともに、海外においては一定規模の需要が続くと想定されるアジア諸国、中でも韓国に注力し、協業で拡充された製品の投入により市場開拓を進めてまいります。

ウェブ事業

■ 売上高

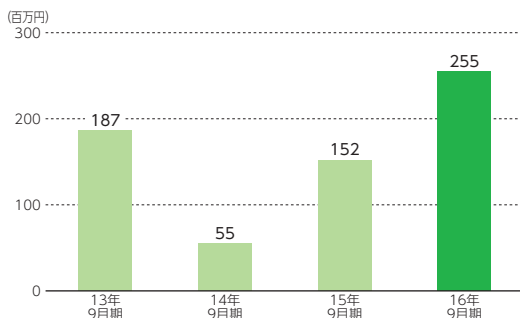
1,418百万円



2.2%

■ セグメント利益

255百万円



66.9%

当事業の主要取引先であります高機能フィルム業界は、主にフラットパネルディスプレイ向け電子部材の設備投資需要が徐々に回復しました。もう一つの主要取引先であります印刷業界は、商業印刷市場の縮小に伴い、設備投資についても厳しい環境が続きました。このような状況の下、当社グループは、高機能フィルム業界並びに印刷業界の中でも需要の安定した軟包装や特殊印刷市場へ向けた販売を強化するとともに、修理・整備、部品販売等のサービス需要獲得や部材の共通化等による生産コスト削減に注力しました。

その結果、当事業の売上高は1,418百万円（前年同期比97.8%）、セグメント利益は255百万円（前年同期比166.9%）となりました。

下期の展望

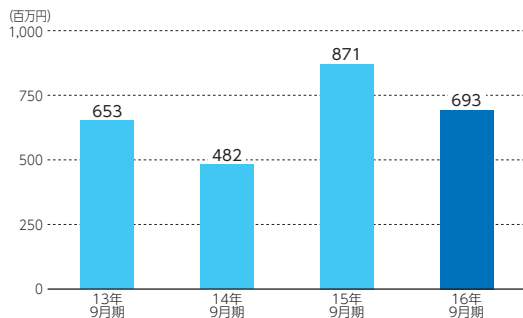
高機能フィルム業界の設備投資は、フラットパネルディスプレイ向けを中心に堅調に推移するものと想定しておりますが、印刷業界の設備投資は、商業印刷市場の縮小が続く状況から、引き続き厳しい状況で推移するものと想定しております。このような状況の下、

当社グループは、引き続き収益性の強化に取り組むとともに、引き合いが好調に推移している絵柄を基準とした位置制御装置の販売強化、印刷品質検査装置のラインアップ拡充、サービス需要の取り込みにより、計画の達成を目指してまいります。

検査機事業

■ 売上高

693百万円



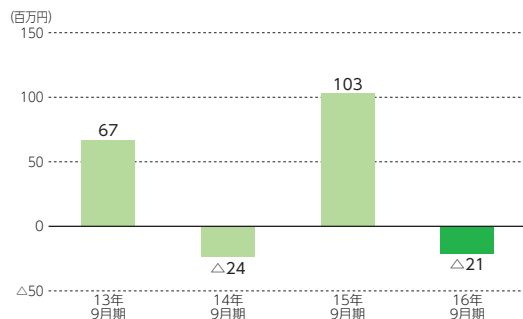
20.4%

当事業の検査装置需要につきましては、フラットパネルディスプレイや二次電池等の高機能フィルムの品質検査需要が堅調に推移するとともに、食の安全・品質に対する意識の高まりを背景に食品品質検査需要の拡大傾向が続きました。このような状況の下、当社グループは、高機能フィルム向けには無地検査装置の豊富なラインアップによる提案を進めるとともに、食品向けには選果装置で培った外観検査技術とコア技術である画像処理技術の応用により実現した新製品の投入を進めてまいりました。

その結果、当事業の売上高は693百万円（前年同期比79.6%）、セグメント損失は21百万円（前年同期はセグメント利益103百万円）となりました。

■ セグメント損失

21百万円



下期の展望

高機能フィルム向けについては、フラットパネルディスプレイや二次電池等の電子部材を対象とした検査装置需要が今後も堅調に推移するものと想定しております。当社グループは、引き続き無地検査装置の豊富なラインアップによる提案を進めることで、需要

の取り込みを図ってまいります。また、食品向けについては、食の安全・品質に対する意識の高まりにより、設備投資需要は引き続き堅調に推移するものと想定しております。当社グループは、市場のニーズを汲んだ製品の開発、投入を進めることで需要に応え、計画の達成を目指してまいります。

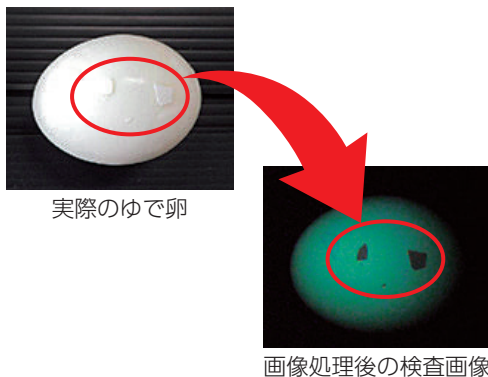
食品関連市場への展開

当社では、高まる食の安全と品質に対する検査ニーズに応えるために、これまで蓄積してきた技術を応用し、食品関連市場への展開を進めております。

加工食品の 外観検査装置を開発

当社の強みである画像処理技術を利用することで、従来は目視により取り除いていた不良品や規格外品を、人手を介さずに取り除くことが可能となりました。

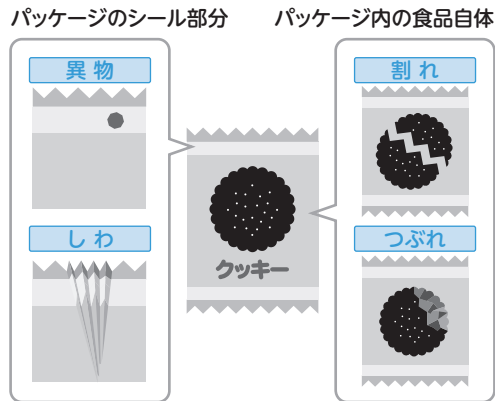
【ゆで卵の残り殻検査の例】



食品パッケージの 噛み込み検査装置を開発

X線の透過性を利用することで、食品パッケージの接着部への異物の噛み込みやしわ、パッケージ内の食品自体の割れ、つぶれ等の欠点を高精度で検出することが可能となりました。

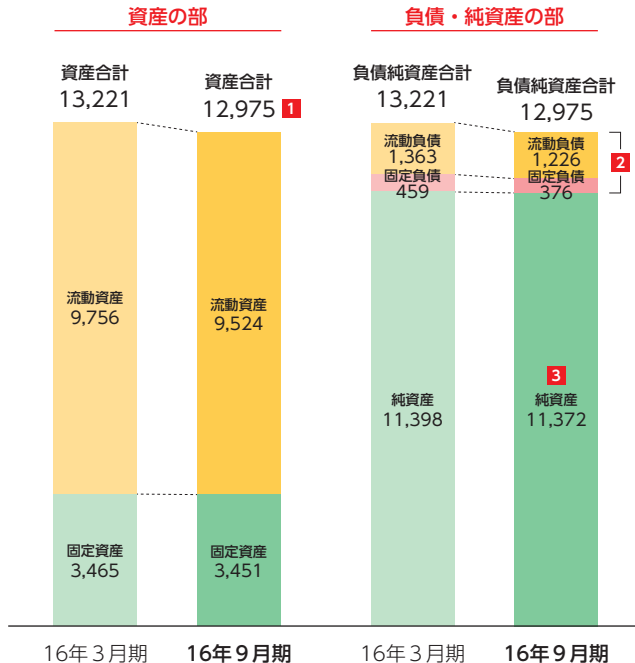
【パッケージへの噛み込みの検出例】



新たに取り入れた技術と強みである画像処理技術を組み合わせることで、食品製造業界に参入する足掛かりをつくることができました。当社は、食品関連市場を有望な成長市場と捉えており、今後も積極的に同市場向けの製品開発を進めるとともに、販売強化することにより、更なる企業価値向上を図ってまいります。

連結財務諸表

第2四半期連結貸借対照表 (単位: 百万円)



Check Point

1 資産

12,975百万円 (前期比△245百万円)

現金及び預金の増加152百万円、受取手形及び売掛金の減少222百万円、仕掛品の減少89百万円、建物及び構築物の減少48百万円などにより、12,975百万円となりました。

2 負債

1,603百万円 (前期比△219百万円)

前受金の増加70百万円、未払法人税等の減少114百万円、長期借入金の減少75百万円、未払費用の減少60百万円などにより、1,603百万円となりました。

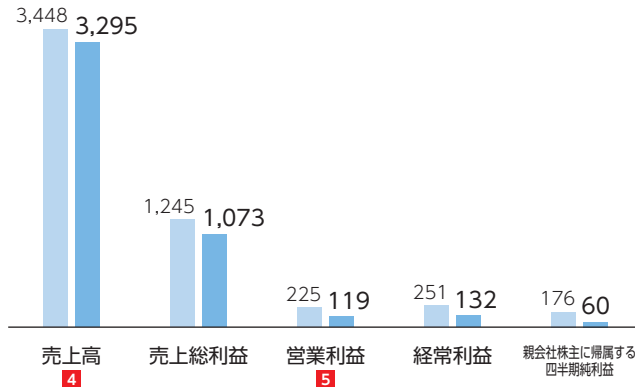
3 純資産

11,372百万円 (前期比△25百万円)

時価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加32百万円、ストックオプション行使等による自己株式の減少32百万円、為替換算調整勘定の減少81百万円などにより、11,372百万円となりました。

第2四半期連結損益計算書 (単位: 百万円)

■ 15年9月期 ■ 16年9月期



4 売上高

3,295百万円 (前年同期比△152百万円)

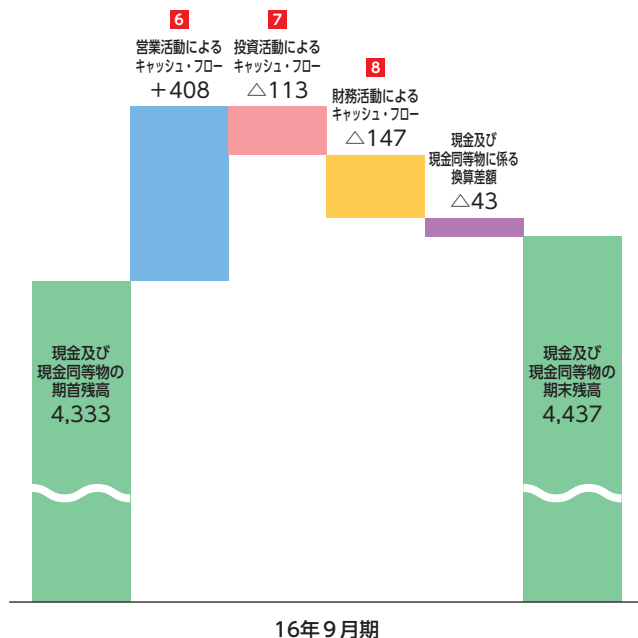
当初想定していた選果装置の一部の売上時期が後ろへずれ込んだことから、検査機事業の売上高が想定を下回り、3,295百万円となりました。

5 営業利益

119百万円 (前年同期比△105百万円)

主に売上高が想定を下回ったことにより、119百万円となりました。

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)



Check Point

6 営業活動によるキャッシュ・フロー

408百万円 (前年同期比+116百万円)

法人税等の支払額87百万円、未払費用の減少60百万円、売上債権の減少183百万円、たな卸資産の減少95百万円などにより、+408百万円となりました。

7 投資活動によるキャッシュ・フロー

△113百万円 (前年同期比△43百万円)

定期預金の払戻による収入176百万円、定期預金の預入による支出227百万円、投資有価証券取得による支出59百万円などにより、△113百万円となりました。

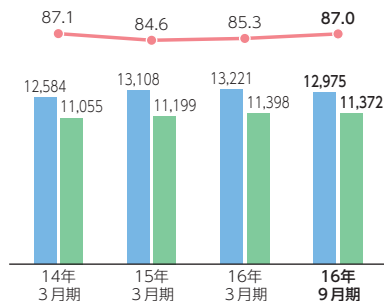
8 財務活動によるキャッシュ・フロー

△147百万円 (前年同期比+5百万円)

自己株式売却による収入18百万円、当社新社屋建設に関する資金調達を主な理由とした長期借入金返済による支出75百万円、配当金の支払73百万円などにより、△147百万円となりました。

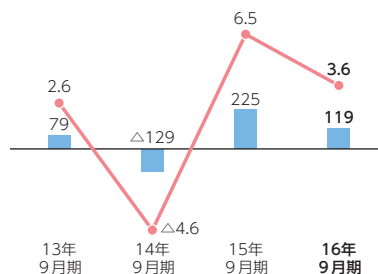
総資産、純資産及び自己資本比率 (単位：百万円、%)

■ 総資産 ■ 純資産 ● 自己資本比率

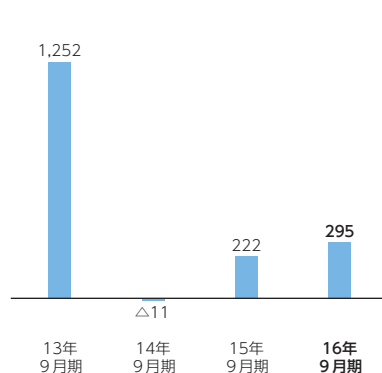


営業利益、営業利益率 (単位：百万円、%)

■ 営業利益 ● 営業利益率



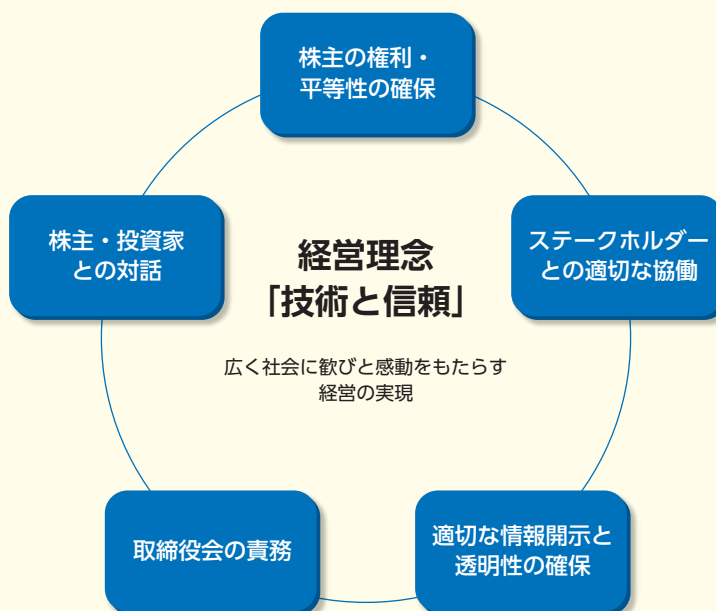
フリー・キャッシュ・フロー (単位：百万円)



ニレコ コーポレート・ガバナンス基本方針の制定

当社は、更なる企業価値向上のためには、迅速、果敢な意思決定による積極的な経営が不可欠であると考え、それを実現するための土台として、ガバナンスの整備・強化に取り組んでおります。この方針の下、「ニレコ コーポレート・ガバナンス基本方針」を制定するとともに、「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」においては、JASDAQ上場会社に求められている水準を超える情報開示を行う等、ステークホルダーにとって重要と思われる情報を積極的に開示し、経営の公正性、透明性の向上に努めております。

「ニレコ コーポレート・ガバナンス基本方針」の概要



本方針の全文及びコーポレート・ガバナンスに関する報告書は、当社ウェブサイト上に公開しております。
(<http://www.nireco.jp/company/governance.html>)

株式の状況

株式の状況 (平成28年9月30日現在)

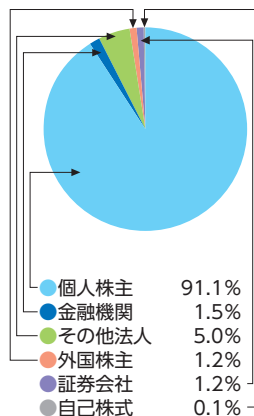
発行可能株式総数： 39,400,000株
 発行済株式の総数： 9,205,249株
 株主数： 1,021名
 大株主：

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託新日鐵住金退職金口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	790	10.7
ニレコ取引先持株会	546	7.4
極東貿易株式会社	469	6.3
株式会社東京都民銀行	364	4.9
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	302	4.1
浅井美博	238	3.2
ニレコ従業員持株会	233	3.1
住友金属鉱山株式会社	231	3.1
株式会社みずほ銀行	182	2.5
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	162	2.2

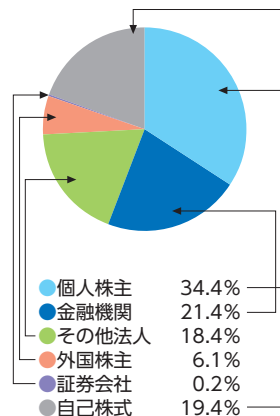
(注) 上記以外に、当社は自己株式1,789,175株を保有しております。なお、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

●株主数



●保有株式数



会社情報

会社の概要 (平成28年9月30日現在)

商号：株式会社ニレコ
 英文商号：NIRECO CORPORATION
 本店所在地：東京都八王子市石川町2951番地4
 設立：昭和25年11月
 資本金：3,072百万円

役員 (平成28年9月30日現在)

会社における地位	氏名	担当又は主な職業
代表取締役社長 ※1	久保田 寿 治	CEO
取締役 ※1	河 西 辰 雄	W&I営業部門長
取締役 ※1	碓 光 司	管理部門長
取締役監査等委員	田 邊 寛一郎	
取締役監査等委員 ※2	中 野 厚 徳	
取締役監査等委員 ※2	橋 本 光 男	

※1 執行役員を兼任しております。
 ※2 会社法に定める社外取締役です。

執行役員

藤原 利之 ニ利可自動制御機器（上海）有限公司董事長兼仁力克股份有限公司董事長
 小林 正明 W&I開発部門長
 三浦 誠 プロセス事業部長
 大澤 祐二 W&I技術部門長

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期 6月下旬
定時株主総会議決権行使株主確定日 3月31日
期末配当金受領株主確定日 3月31日
中間配当金受領株主確定日 9月30日
法定公告は次のURLに掲載しております。

<http://www.nireco.jp/ir/notice/index.html>

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

- 同事務取扱場所
〒100-8212
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 郵便物送付及び電話照会先
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。


下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **6863**

 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます

 ※本アンケートは、株式会社 a2media (エーツーメディア) の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2media についての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com

ホームページのご案内

<http://www.nireco.jp>

トップページ



IRページ



最新ニュースをはじめ業績報告や会社情報などを詳しくご案内しております。

株式会社ニレコ

〒192-8522 東京都八王子市石川町2951番地4
電話 042-642-3111 (代表)

UD
FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

